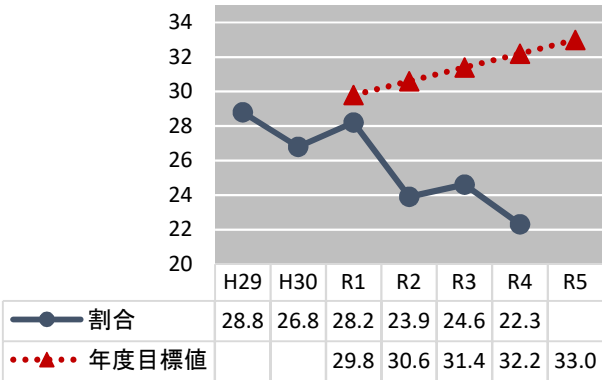


目標	VIII	生涯にわたる学びの推進		
施策	25	学びを支える環境の整備		
主な取組	○ 「子ども大学」の充実に向けた支援			
	○ 多様な学習機会の提供			
	○ 人生100年時代に対応した学び直しの在り方の検討			
	○ 外国人親子への支援と地域住民とのつながりづくり（再掲）			
	○ げんきプラザを活用した体験活動の充実			
	○ 地域学習の推進を支える人づくり			
	○ 障害者の生涯を通じた学びの支援			
	○ 県立図書館における県民のチャレンジ支援の充実			
	○ 新しい県立図書館の検討・推進			
担当課	特別支援教育課、生涯学習推進課			
主な事業				
事業名	予算額 (千円)	事業の概要・実績	事業の自己評価	担当課
「外国人親子への支援と地域住民とのつながりづくり」モデル事業 → 施策24参照				生推
青少年げんき・いきいき体験活動事業	655	<p>青少年の豊かな人間性や社会性、自立心などを培い、豊かな感性を育むため、げんきプラザにおいて異年齢の子供や地域の大人、ボランティアなど多くの人々と交流する様々な体験活動事業を実施する。</p> <p>○いきいき体験活動事業：11事業 269人参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野外活動やクラブ体験等の自然体験活動を通して、障害のある子とない子、指導者と参加者などが、交流を通して、心のバリアフリー化を目指す取組 <p>○わくわく未来事業：13事業 410人参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の適応指導教室と連携し、登校に不安を抱える児童生徒を対象として、調理体験やレクリエーション等の集団活動を通して、社会性や自立心を育む取組 <p>○のびのびチャレンジ事業：10事業 132人参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アスポート学習支援と連携し、経済的に困難な家庭の児童生徒に、体験活動を通して、協働して課題を解決する力を育む取組 	<p>参加者から「普段できない活動ができてよかった。新しい仲間と思いきり遊べた」といった声があがるなど、いずれの事業も肯定的な意見を得られ、豊かな人間性や社会性、自立心、豊かな感性の育成につながった。</p> <p>参加者数については、いずれの事業も前年度を上回り、コロナ禍以前の数に近づいている。今後、より多くの青少年の育成につながるよう、事業のねらいを明確にし、対象者に合わせた活動内容の充実を図っていく。</p>	生推
障害者の生涯を通じた多様な学習活動推進事業 → 施策13参照				特教

事業名	予算額 (千円)	事業の概要・実績	事業の自己評価	担当課																								
県立図書館サービス充実・強化推進事業	4,181	<p>ビジネス支援サービスや健康・医療情報サービスの充実・強化を図るため、専門資料の収集やオンラインデータベースの整備を行う。また、市町村立図書館のサービス充実・強化を図るため、市町村立図書館職員向けの研修を実施する。</p> <p>○専門資料の収集やオンラインデータベースの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス支援関係資料366冊 ・健康・医療情報関係資料401冊 <p>○「ビジネス・ライブラリアン研修」の開催（ハイブリッド形式・1回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者数：市町立図書館職員13人（集合3人/オンライン10人） ・受講者満足度：4.9/5 ※ <p>○「健康・医療情報サービス研修会」の開催（ハイブリッド形式・1回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者数：市立図書館職員19人（集合16人/オンライン3人） ・受講者満足度：4.9/5 ※ <p>※ 研修参加者へのアンケート結果（5段階評価）</p>	<p>ビジネス支援サービスに係る専門資料の収集は令和3年度並みの冊数を確保し、サービスを充実することができた。健康・医療情報サービスは闘病記コーナー新設のため、専門資料の収集点数を増やし、サービスを強化することができた。また、専門データベースは令和3年度から4タイトル減となったが、内容と提供方法を精査、厳選することで県内の知識・情報拠点としての機能を維持することができた。</p> <p>研修受講者の満足度はいずれも高く、図書館職員の資質向上につながった。県民のニーズが高いと思われるビジネス、健康・医療情報については、より多くの市町村立図書館でサービスを提供することが望ましいが、積極的に展開している市町村は少数にとどまっている。今後、研修だけでなく、サービス事例等を積極的に紹介することで、サービスの実施を検討している市町村立図書館のスタートアップをフォローしていく必要がある。</p>	生推																								
新県立図書館整備検討事業	10,208	<p>新たな時代にふさわしい県立図書館の整備に向けた検討を行う。</p> <p>令和4年度は、新しい県立図書館の構想案を策定するため、県民・専門家の意見を聴取する。</p> <p>○県政世論調査「県立図書館の将来像に関するニーズについて」の実施</p> <p>○「県民とともにつくる新県立図書館ワークショップ」の実施（4回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者数 延べ43人 <p>○新埼玉県立図書館基本構想検討専門家会議の実施（4回）</p>	<p>県政世論調査及びワークショップで得られた県民の意見や、専門家会議で得られた学識経験者や図書館関係者の意見を取り入れながら、基本構想案の作成を進めることができた。</p>	生推																								
施策指標の達成状況・原因分析	<p>●1年間に生涯学習活動に取り組んだ人の割合（%） [出典：埼玉県県政サポーターアンケート]</p>			生推																								
<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;"> <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>● 割合</td> <td>67.7</td> <td>67.9</td> <td>69.8</td> <td>67.8</td> <td>69.8</td> <td>74.6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>●●● 年度目標値</td> <td></td> <td></td> <td>69.0</td> <td>70.0</td> <td>71.0</td> <td>72.0</td> <td>73.0</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="flex: 1; padding-left: 20px;"> <p>【原因分析】</p> <p>令和3年度から4.8ポイント上昇し、最終目標値を上回った。</p> <p>令和4年度のアンケートにおける「どのような施設や場所を使って活動を行ったか」という質問に対して、前年度と比べて音楽ホールなどの「文化施設」や「オンライン」といった選択肢が一定程度伸びを示した。</p> <p>コロナ禍3年目となる中で、オンラインコンテンツの活用が進むとともに、社会経済活動の再開に伴い、コンサート等への参加者数が増加していることなどが全体の伸びにつながっているものと推察される。</p> </div> </div>						H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	● 割合	67.7	67.9	69.8	67.8	69.8	74.6		●●● 年度目標値			69.0	70.0	71.0	72.0	73.0
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5																					
● 割合	67.7	67.9	69.8	67.8	69.8	74.6																						
●●● 年度目標値			69.0	70.0	71.0	72.0	73.0																					

学識経験者の 意見・提言	<p>生涯学習分野はその名の通り、広範な年齢層にわたって展開される事柄である一方、各取組については、ターゲットを絞って実施されるものであろう。その際、例えば、どの年代のどのようなニーズに応じていくか等、取捨選択を迫られるものであるため、全体としてバランスの取れた事業展開を引き続き目指していくことが期待される。令和4年度は、社会状況に応じたバランスの取れた内容になっていたといえよう。指標達成の原因分析として、オンラインコンテンツの活用が挙げられているが、取組の工夫の賜物と捉えると同時に、現時点では情報機器を活用できない状況にある人々へのフォローもまた検討してほしいと考える。</p>	
	<p>岸田内閣の掲げる「新しい資本主義」の中でもリスクリング等人への投資が掲げられており、以前より社会人や年齢層の高い人でも学習意欲が高まっている。また、生成AIや量子コンピューターの活用が始まる等、近年の技術革新によりパラダイムシフトが起きるかもしれないとも言われており、社会の変革に対応するためにも生涯学習の必要性は高まっていく。コンテンツの更なる充実をお願いしたい。</p>	
今後の取組	<p>障害者の生涯を通じた多様な学習活動推進事業は令和4年度をもって廃止となったが、令和5年度から、特別支援学校の児童生徒が生涯学習に取り組むきっかけを作るため、生涯学習を実践している卒業生や地域のパラアスリート・芸術家等を学校に招いて講演や実技指導を行う「生涯学習支援アドバイザー事業」を実施し、障害のある子供たちの生涯学習を推進していく。</p>	特教
	<p>引き続き県民へのアンケート調査を実施し、年代別の生涯学習に対するニーズや、オンラインコンテンツに対する意識・課題などを把握し、社会人や高齢者層を含め、幅広い県民が生涯学習活動に取り組めるよう各種事業に生かしていく。</p> <p>げんきプラザにおいては、引き続き各げんきプラザの特色を生かした魅力あるプログラムを展開し、体験活動事業の充実を図るとともに、他機関と連携・協力した事例の共有を図る。</p> <p>県立図書館においては、引き続き県民の課題解決支援サービスの更なる充実を図る。また、ビジネス支援、健康・医療情報サービス事例等の積極的な共有により、市町村立図書館におけるサービス実施のスタートアップをフォローし、全県的な課題解決支援サービスの展開を推進する。</p> <p>新県立図書館の検討については、基本構想案について県民コメントを実施し、意見等を反映した上で策定を進める。また、新県立図書館において不可欠なサービスであるデジタルライブラリーについて、他都道府県の先進事例の調査を実施するなど、具体的なサービス内容の検討を進める。</p>	生推

目標	VIII	生涯にわたる学びの推進		
施策	26	学びの成果の活用の促進		
主な取組	○ 学びの成果の活用の支援			
	○ 「子ども大学」における学びの成果の活用			
	○ 社会教育関係団体等をつなぐネットワークづくり			
	○ 学びを活用した地域課題解決への支援			
担当課	生涯学習推進課			
主な事業				
事業名	予算額 (千円)	事業の概要・実績	事業の自己評価	担当課
生涯学習情報の発信	0	<p>県民の生涯学習活動の支援及び充実のため、生涯学習情報発信サイト「生涯学習ステーション」により、指導者やイベント、講座などの情報を提供する。</p> <p>○情報提供の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者登録数：363人 ・イベント掲載数（令和4年度実施イベント）：771件 ・指導者紹介数：53件 <p>○アクセス数：134,823件</p>	<p>令和4年度の「生涯学習ステーション」へのアクセス数が、令和3年度と比較し12,000件程度増加していることや、「1年間に生涯学習活動に取り組んだ人の割合」が令和3年度と比較して上昇（R3:69.8% → R4:74.6%）していることから、情報発信が県民の生涯学習活動の支援・充実につながったと考える。</p> <p>一方、コロナ禍を背景に、学びの成果を地域や社会での活動に生かすことへの支援にまでは至らなかった。</p>	生推
越境×探究！未来共創プロジェクト	495	<p>地域や社会の人的・物的資源を活用した実社会からの学びを充実させ、学んだことを実社会で生かすことを目的とし、各種取組を実施した。</p> <p>○教職員等を対象とした学びの場の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容：地域課題解決に向けたプロジェクトの実践 ・開催回数、参加人数：8回、24人（学校17、企業・団体4、行政3） <p>○「地域の力」を「教育活動」に活用できる「教育プログラム」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域のマッチング：15件 <p>○「越境×探究！未来共創プロジェクト」フォーラムの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容：学びの場の成果発表、全員参加型グループセッション ・開催回数、参加人数：1回、147人 	<p>教職員等を対象とした学びの場の提供では、想定していた参加者数を確保することができた。</p> <p>教職員と企業・団体の職員とが共に課題解決の方法を学び、教職員の資質・能力の向上を図るとともに学校職員と企業等との交流の機会を設けることができたと捉えている。</p> <p>また、「教育プログラム」を活用した学校と地域のマッチングにより、地域や社会と連携・協働した教育活動を充実させることができた。マッチングの件数は増加傾向にある（R3：9件 → R4：15件）が、さらに増加が図られるよう周知に努める。</p> <p>これらを通じ、地域や社会の人的・物的資源を活用した実社会からの学びを充実することは図られたが、一方で学びを実社会で生かすための取組を推進する必要がある。</p>	生推

<p>施策指標の達成状況・原因分析</p>	<p>●生涯学習を通じて身に付けた知識・技能や経験等を地域や社会での活動に生かしている人の割合 (%) [出典：埼玉県県政サポーターアンケート]</p>  <p>【原因分析】 令和3年度と比較して減少した。 「1年間に取り組んだ生涯学習活動の実施場所」という質問では、「公民館」と「集会所などの地域の施設」の割合は減少している一方で、「個人の家（オンライン学習等を含む）」の割合が増加している。この結果から、コロナ禍で他者と関わる機会が減少している中で、オンライン学習など、個人で学習する機会が増加する傾向にあることがうかがわれる。 上述の傾向と連動して、学習した知識等の生かし方についても、コロナ禍を背景に、地域など外に向けてのではなく、個人で完結している状況に変化していることが推察され、指標の割合の減少につながっていると考えられる。</p> <table border="1" data-bbox="443 470 1043 580"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>● 割合</td> <td>28.8</td> <td>26.8</td> <td>28.2</td> <td>23.9</td> <td>24.6</td> <td>22.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>●●●▲ 年度目標値</td> <td></td> <td></td> <td>29.8</td> <td>30.6</td> <td>31.4</td> <td>32.2</td> <td>33.0</td> </tr> </tbody> </table>		H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	● 割合	28.8	26.8	28.2	23.9	24.6	22.3		●●●▲ 年度目標値			29.8	30.6	31.4	32.2	33.0	<p>生推</p>
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5																			
● 割合	28.8	26.8	28.2	23.9	24.6	22.3																				
●●●▲ 年度目標値			29.8	30.6	31.4	32.2	33.0																			
<p>学識経験者の意見・提言</p>	<p>学びの成果の活用に先立ち、「生涯学習ステーション」を介してまずは生涯学習に関わる情報へのアクセスが継続してなされるようになったことは評価できる。ただし、誰もがアクセス可能で、取り組みやすい事業を目指そうとすると、一方で、そこで身に付けた知識・技能を効果的に生かす場を見出すことがかえって難しくなってしまうという事は避けられないだろう。また、学びの成果を生かしているという実感を得られる具体的な体験の場をコロナ禍によって制限されてしまっていたことも、指標達成を成し得なかった原因としては理解できる。今後は、状況の改善を確認した上で、意識的に「生かす場」の設定を検討していくことが期待される。</p> <p>世の中の生涯学習意欲向上の中、「生涯学習ステーション」の充実が、利用者の増加につながっている。今後も生涯学習意欲は高まっていくと思われ、更なる情報発信に努めていただきたい。また、内閣府の生涯学習に関する調査結果を見ると、地域や社会での活動に自分の経験を生かしたいと考えている人は、一定数存在していると思われ、マッチングの機会を増加するように努めていただきたい。</p>																									
<p>今後の取組</p>	<p>（「越境×探究！未来共創プロジェクト」は、令和5年度から高校教育指導課が担当する） 「越境×探究！未来共創プロジェクト」については、地域や社会と連携・協働した教育活動を充実させるため、「教育プログラム」を活用した学校と地域のマッチングが促進できるよう、より一層情報を周知していく。また、学びを実社会で生かすための取組を推進するために、学校と地域のつながりを深化させるとともに、教員研修会等の機会を利用して教科や探究活動における学びを社会で活用する方法について教職員の理解増進を図っていく。</p> <p>「生涯学習ステーション」に掲載するイベント情報の拡充により、更なる情報発信に努める。さらに、学んだ知識・技能や経験等を生かす場が効果的に見つけられるよう、新たなデジタル技術の活用の視点も含め、「生涯学習ステーション」の機能拡充を検討する。</p>	<p>高指 生推</p>																								